



こかげのにちじょう⑥

～児相による、保護者や子どもの意向確認～

鳴海 明敏

11月某日

今日から一泊二日の日程で小6のルカ君が、大好きな担当のFさん(男性ケアワーカー)と二人で、函館までの学園旅行に出発した。

夕べの夕食後、園長室に来て、旅行のことを伝えてくれた。楽しみにしているのは当然だが、怖がり屋さんのルカ君は今朝の地震のせいでちょっと心配らしい。私が、「青森から函館に行くには、海峡を越えていくことになるんだけど、海底トンネルだよ!」と言うと、「それって、大丈夫?」と心配そうに問い返してきたので、慌てて心配ないよと言ってあげた。

学園の小学生と中学生は市立の小・中学校の分教室で義務教育を受けていて、その分教室には学園の子どもたちだけが通っている。お昼の給食は学校給食センターからの給食を食べさせてもらっているが、分教室としての修学旅行は行っていない。

そこで、学園では小6と中3児童について、この時期に「学園旅行」と称して、担当職員との小旅行に出ている。行先は、職員と相談して決めているが、函館や仙台が多い。

11月某日

卒園児童のエイト君が遊びに来た。彼は学園開設の年に中2で入所。学園としては大変な時期で、古参の職員からは「学園暗黒期」と呼ばれている時期だったが、無事に私立高校の自動車科を卒業して、市内の自動車会社の工場で整備士として働いている。現在は、お婿さんとして一家を構えている。

そのエイト君が、園長室に顔を出して、重大な報告があると言って、奥さんの第一子ご懐妊を報告してくれた。女子児童の中には、退所後母親になり子育てしているケースもあるが、男児で父親になったのは彼が第一号だと思う。

11月某日

今日は、現在20歳になるミオさん学園に顔を出した。彼女は、17歳の時に高校中退の状態に入所し、1年ちょっと居て、親元ではなく青森市内のグループホームに退所した。

対応した職員の記録には、「肩まである髪を下ろし、眼鏡をかけ、ラフな恰好。目元の化粧が以前よりも濃い。最近では就労先（就労支援事業所）を辞め、アルバイトをする予定であったが、主治医からしばらく休養した方がいいと言われ、再就職せずにのんびりしている。前の就労先がブラックで、支援員はすぐに辞めるし、本児が辞める時には、合計4時間くらい残って仕事して欲しいと説得されたりした。頼りにされていたのは嬉しかったが、その分、任せられる仕事量が多くプレッシャーになっていた。

今後は大検と宅建の資格を取得したいと思っており、来年10月の試験に向けて日中は図書館で勉強をしている。

また、ずっと家（グループホーム）にいても飽きるので相談支援事業所のケアマネさんに相談して、12月からアクセスジョブに通う予定となっている。食事は自炊をしており、お酒もほどほどにしている。お金も、障害年金と生活保護で何とかなっている。」と書かれていた。

在園中は、ウェブ上での遠距離恋愛や吹雪の中の無断外出など無鉄砲な行動もあって心配したが、彼女なりに楽しそうに逞しく生活しているようで一安心。でも彼女には、まだまだ波乱万丈の人生が待っているんだろうなあ・・・

11月某日

県内から入所した通信高校1年のマサオ君。ゲームのことで親から注意されると暴れたり、通信高校のスクーリングに通えないなどの理由で入所した。

学園の生活にある程度慣れたところで、スクーリングのために自宅に外泊（校舎が親元にあるので）させたところ、そのまま帰園を拒否。親と児相は、なし崩し的に退所するのは認めないということで、学園の職員が迎えに行き、親と児相、職員で本児を説得したが、帰園することには同意せず、ひとまず児相と学園職員は引き上げた。

その後、説得が功を奏したのか、本児は母親の言うことも聞くようになり、自転車を引っ張り出してスクーリングにも行きだしたとのこと。それを受けて、しばらく様子を見ようと言うことで児相が措置停止にした。

施設での生活が嫌で自宅に逃げ帰り、なし崩し的に措置解除にせざるをえないことを忌避する人もいるが、私は、このような「施設利用」もありだろうなあと思っている。施設での生活が嫌で、それくらいなら自宅で頑張ろうと思って頑張れるなら、措置した甲斐がある

と評価してもいいだろうと、私は思っている。

11 月某日

トゥレット症候群、ADHD という診断がついている小6のルルさんが入所。児相からの情報では、「学力的には小3くらいか。学校にもあまり行けていない。母・祖母への家庭内暴力がひどく、何度も警察沙汰に。家族は暴れないようにと対応していて、結局本人の要求通りになってしまっている。」とのこと。

入所初日に、自分の病気（トゥレット症候群）のことは、本児から職員に話しがあるまで他児には伝えないで欲しいと言う希望あり。二日目まで様子を見てみると、会話の中で所々声が大きくなる音声チックが頻回に見られているが、他児は気に留めていない様子。掃除の時間に小5のランさんが掃除の仕方を教えていて、ルルさんが大きな声を出すと「おっきいね、声。」と受け流していたとのこと。

トゥレット症候群の子どもを受け入れるのは初めてなので、今後の展開が楽しみ。（了）